

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（小学校）

【松伏町教育委員会】

1 本校の研修課題

確かな学力を身につけさせるための指導法の工夫 ～算数科の基礎的・基本的な内容の確実な定着をめざして～

<目指す児童像> ↓

算数の楽しさが分かり、進んで学習する児童

2 「教育に関する3つの達成目標」、県学力状況調査からみる課題

- ① 「数と計算」の内容では向上がみられたが、「量と計算」「図形」の結果が低い。
- ② 児童のアンケートから、次の2項目が低い。
 - ・「ふだん家でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」
 - ・「学習の授業時間以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか。」

3 学習状況調査分析支援プログラム（クロス集計より）



学習状況調査分析支援プログラム<小学校 クロス集計>の活用

- ・算数における「【観点】〈関意態〉・〈考え方〉〈技能表現〉〈知識理解〉」と「学校の授業時間以外

に、1日にどのくらい勉強しますか。」の相関がある。

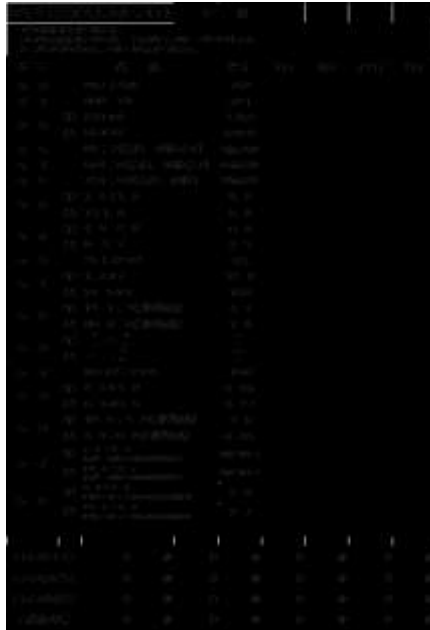
- ・「【内容】〈量と測定〉〈図形〉」と「学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強しますか。」の相関がある。

4 学力向上に向けた方策（子ども達の学習意欲を高めるために）

- ① 個人カルテ（やる気パスポート）の効果的活用
- ② 授業における話し合い活動の工夫

5 具体的な取組

〈やる気パスポートへの取り組み〉



① 「個人カルテ（やる気パスポート）」を活用した指導の充実

教育に関する3つの達成目標「学力」（計算）・県学習状況調査の検証結果をもとに、「個人カルテ」を作成し子ども達一人一人の実態を把握し、個に応じた指導の充実を図っている。

各学年でどこまで目標が達成できたかを、ミニテストやチャレンジ問題、確認テストを通して児童用「算数個人カルテ」に記入し、個別指導に役立てる。また「個人カード」は、6年間持ち上がり、次学年でも活用している。

次学年の担当は、申し送られた「教師用カルテ」を確認し、全学年までに達成できない項目に着目し、基礎学力の定着をめざし繰り返し取り組ませることで、学力の定着を図っている。

② 授業における話し合い活動への取り組み

自力解決をし、自分の考えを隣の児童に説明するペア学習の時間を設けている。ノートを図や式を見せながら、順序を示す言葉「まず」「次に」「そして」や、考えた根拠がわかる言葉「～だから」「～なので」等を用いながら説明できるように取り組ませている。

全体の前で考えを発表する前段階としてペア学習を設けることで、自分の考えや発表に自信を与えることができると考えている。

